

## 「実技教科（体育）」グループ

山目校舎小学部・鎌田円、及川央子、村上綾  
 本校舎中学部・小原光枝、佐藤礼子、中野葵、  
 奥村恭平 佐藤圭  
 本校舎高等部・千田一成、石川加奈、大竹弘幸

### 1 研究テーマ

「学部間のつながりをもったボール運動の指導」

### 2 研究内容

- ① 実態把握について
- ② スキル獲得のための学習内容について
- ③ ネット型ゲームにおける簡易ルールの設定（本校舎中学部・高等部）
  - <山目校舎小学部グループ>  
「『転がす』『投げる』の動作の獲得について」
  - <本校舎中学部グループ>  
「ソフトバレーボール：  
オーバーハンドパスとアンダーハンドパスについて」
  - <本校舎高等部グループ>  
「バレーボール：  
オーバーハンドパスとアンダーハンドパスについて」

### 3 研究計画

	本校舎中学部グループ	本校舎高等部グループ	山目校舎小学部グループ
H28・5	研究テーマについて、小グループ分け		
6	授業研（及川央子 T）		
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握</li> <li>・ソフトバレーボールのルールの検討</li> <li>・授業内容の検討</li> </ul>		・実態把握について
8	↓		・スキル獲得のための方法について検討
9	授業研（石川加奈 T）		
10	・授業実践		・授業実践
11	中間報告会にむけて		
12	全校研究会（中間報告）		
H29・1	小グループのまとめ		
2	実技グループのまとめ		

### 4 成果と課題

#### （1）成果

実態把握表を作成したことにより、児童生徒のつまずきを明確にすることができ、そこに焦点を当てた学習内容を展開することができた。

2回の授業提案を行うことができ、広く意見交換することができた。

視覚的な教材の提示は、スキル獲得のために有効であった。また、生徒同士、声を掛け合う、役割分担をするなど、集団としての高まりも見られた。

#### （2）課題

簡易ルールでのゲームを行うにあたっての実態把握表の見直し（パス、サーブ）が必要である。

具体的なスキル獲得のために、自分から体を動かすことの習慣化やそれに伴って

のボディイメージを獲得、体の使い方を体得させていくなどベースとなる部分へのアプローチが必要である。